

72 期 1 学年 江風探究ユニット⑤（論文作成）について（手引き）

- 1 探究テーマ：「新潟市の課題を解決するために行った探究活動を、論文にまとめよう」
- 2 目的：新潟市の現状から課題を発見し、仮説の設定から実証・検証に至るまでの一連の探究活動を、論文にまとめることによって、2年生での課題研究にもつながるような表現力と思考力を養う。
研究テーマは次の5つ。①人口減少・子育て ②経済 ③食と農 ④環境 ⑤多様性
- 3 日程：1月11日（水）LHR 事前指導
1月11日（水）～3月12日（日） 各自で論文の作成
3月13日（月）SHR 論文提出
- 4 方法：1月11日に、論文の手引きと原稿を配付する。発表スライドと本手引きに従って、3月13日までに論文を作成する。デジタルデータに入力・印刷し、提出してもよい。
デジタルデータ：Google 共有ドライブ＞72 期生徒共有＞ユニット5_論文原稿【ひな形】
＞三点マーク(…)＞コピーを作成＞マイドライブに保存 Google ドキュメントで作成

5 論文の構成

①表紙 ②序論 ③研究手法 ④結果・考察 ⑤結論・展望 ⑥引用文献・参考文献 ⑦付録

| | |
|----------------------------------|---|
| ①表紙 (組、番、氏名、班、タイトル) | <p>タイトルは、次の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の研究を行ったかが分かり、かつ興味を引くものにする。 ・同じテーマの他の論文との違いを際立たせる。 ・補足情報はサブタイトルにする。 |
| ①序論 (研究背景、意義、リサーチクエスチョン、仮説など) | <p>序論では、次の点に留意して、研究背景・目的・意義を中心に簡潔にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究背景は、自班の研究テーマとその現状について説明する。初見者にも研究内容が分かるよう、必要な知識を紹介する。 ・研究に取り組むことでどのような貢献が想定されるか、研究意義について述べる。 ・研究テーマから、どのようなリサーチクエスチョンを立てたのか、説明する。 ・リサーチクエスチョンに対して、どのような仮説を立てたのか、説明する。また、その根拠も示す。 ・その仮説を、どのように実証・検証するのか、簡単に示す。 ・可能であれば、先行研究や過去の取組から、解明・解決の内容と、未解明・未解決の内容を明らかにする。 |
| ②研究手法 (調査方法) | <p>研究手法を書く意義は2つある。1つ目は、行った研究手法の妥当性を示すため、2つ目は、後輩が研究を再現できるようにするためである。その際、次の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査、実験で何をgetしたいか明らかにすることで、研究の目標を具体的に示す。 ・どのような手順で調査、実験を進めたのか詳細に示す。 |

| | |
|---------------|---|
| ③結果・考察 | <p>得られた研究結果と、それをもとにした考察を示す。</p> <p>【結果に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい形でまとめたデータ ・ 個々の結果の説明 ・ 個々の結果の要約（例「要するに〇〇ということだ」） <p>【考察に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果に含まれる事実 ・ 次の研究につながる問い ・ 結論を導く（詳しい説明は次の「④結論・展望」で行う） |
| ④結論・展望 | <p>・ 結論はリサーチクエスションへの答えを示すまとめの部分である。</p> <p>例 〔考察1〕・〔考察2〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠① 〔考察3〕・〔考察4〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠② 〔考察5〕によって、〇〇ことが分かった。 ……根拠③</p> <p style="text-align: center;">▽</p> <p> 〔結論〕「これら3つの根拠（①～③）から、高い可能性で次のような結論を導くことができる。その結論とは、〇〇ということだ。よって、私たち〇班が設定した仮説は……」</p> <p>・ 展望は、この研究結果によって、今後どのような展開があるかを記す部分である。考察の中で立てた新たな問いから、新たな研究が考えられる場合は、それを示す。</p> |
| ⑤引用文献 参考文献 | <p>書き方は次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット：著者、「Web ページのタイトル」、URL、情報を確認した日 ・ 書 籍：著者、『書名』、出版社、出版年、利用したページ |
| ⑥付録 | <p>本章で書ききれなかった補足内容があればここに示す。図表や印刷した参考資料等があればここに添付してもよい。</p> |

6 備 考

- ・ 論文にまとめる際には、グループ学習で行ってきた内容（ワークシートやスライドの内容）だけでなく、自分独自の新たな内容を盛り込むようにする（自分独自の観点、自分が新たに書籍等で調べたこと、自分独自の考察などを付け加える努力をする）。
- ・ 2年生での課題研究も見据えて、論文作成を行う。
- ・ 3月22日（水）に2学年のSSH課題研究成果発表会がある。

参考文献：岡本尚也『課題研究メソッド よりよい探究活動のために』新興出版社啓林館 2017年